

2009年から2019年 平成21年～平成31年

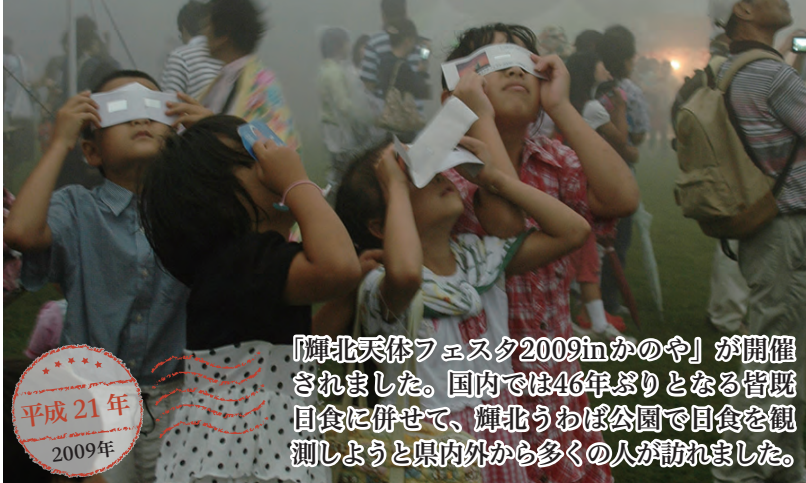
12月21日、東九州自動車道「鹿屋串良JCT～曾於弥五郎IC (17.7km)」と大隅縦貫道「鹿屋串良JCT～笠之原IC (6.1km)」が開通し、鹿屋まで高速道路が結ばれた歴史的な一日となりました。

平成 26 年
2014年

「東九州自動車道」 「大隅縦貫道（一部）」開通



「輝北天体フェスタ2009inかのや」開催



「輝北天体フェスタ2009inかのや」が開催されました。国内では46年ぶりとなる皆既日食に併せて、輝北うわば公園で日食を観測しようと県内外から多くの人を訪れました。

平成 21 年
2009年



「鹿児島中央駅～鹿屋間直行バス」運行開始

平成23年春の九州新幹線鹿児島ルート全線開業を見据えて、鹿児島中央駅と鹿屋市を1日5往復約2時間で結ぶ直行バスの運行が開始されました。

平成 21 年
2009年

2010

- 平成二十二年
- 4 小惑星探査機「はやぶさ」が7年の飛行を終え帰還。小惑星イトカワから微粒子を持ち帰る
 - 3 観光などに大打撃
 - 2 平成の大合併終了。県内の市町村数はほぼ半減の43となる
 - 2 ウイルス性家畜伝染病「口蹄疫」が宮崎県で発生。鹿児島県内への侵入は防いだが畜産、観光などに大打撃
 - 1 日本年金機構発足
 - 1 バンクーバー五輪でフィギュアスケートの浅田真央選手が悔し涙の銀メダル

2009

- 平成二十一年
- 12 女子ゴルフ横峯さくら選手（鹿屋市出身）が初の賞金女王
 - 12 18歳の石川遼選手が最年少でゴルフ賞金王
 - 11 多勝記録更新
 - 11 横綱白鵬関が86勝で年間最多勝記録更新
 - 10 鹿児島地裁で初の裁判員裁判
 - 9 ノーベル平和賞にオバマ米大統領
 - 9 消費者庁発足
 - 6 国内で46年ぶりとなる皆既日食が、喜界島など県内一部地域で観測
 - 6 マイケル・ジャクソンさん急死
 - 5 裁判員制度スタート
 - 3 宇宙飛行士若田光一さんが日本人として初めて宇宙長期滞在に出発

国内外での主な出来事



「南部学校給食センター」 供用開始

「鹿屋市南部学校給食センター」の開設式が行われ、テープカットのほか、大隅産の食材で調理された給食の試食会などが行われました。



「国道220号 古江バイパス」 (古里~花岡間)開通

急勾配・急カーブが連続する通称「古江坂」を回避するために、白水町~垂水市新城間7.5kmを繋ぐ「国道220号古江バイパス」が開通しました。



輝北中学校開校

百引中学校・市成中学校の2つの中学校が統合され、生徒数102人の輝北中学校が新たに開校しました。



輝北小学校開校

百引小学校・平南小学校・市成小学校・高尾小学校・岳野小学校の5つの小学校が統合され、児童数164人の輝北小学校が新たに開校しました。



◀2012

▶2011

- 平成二十四年
- 10 保里選手に国民栄誉賞
 - 10 レスリングの五輪、世界選手権で13大会連続世界一の吉田沙弥さんにノーベル医学生理学賞
 - 9 iPS細胞を開発した山中伸弥さんにノーベル医学生理学賞
 - 9 山口観弘選手(志布志高)が競泳男子200m平泳ぎで世界新記録
 - 7 泉出身の迫田さおり選手(バレエ女子)、新鍋理沙選手(同)、福元美穂選手(サッカー女子)ら活躍
 - 5 東京スカイツリー開業
 - 5 ロンドン五輪でボクシング村田諒太選手らが金7個獲得。

- 平成二十三年
- 12 県初のドクターヘリ運航開始
 - 10 体操の内村航平選手が世界選手権で前人未到の個人総合3連覇
 - 7 サッカー女子W杯で日本代表(なでしこジャパン)が初優勝
 - 3 九州新幹線鹿児島ルート全線開業
 - 3 東日本大震災。三陸沖を震源にM9.0の巨大地震が発生し、沿岸各地に大津波が襲来。津波で福島第1原発事故発生。死者・行方不明者が1万8,000人以上に上る未曾有の大災害に。余震も頻発した
 - 3 全国高校駅伝男子で鹿児島実業高校が初優勝
 - 6 女子ゴルフの宮里藍選手が日本勢初の世界ランキング1位
 - 6 全国高校駅伝男子で鹿児島実業高校が初優勝



「イングリッシュローズガーデン」オープン

イギリスのバラ苗生産会社から約9,000株の寄贈を受け、かのやばら園に日本最大級で約1.5haの「イングリッシュローズガーデン」が誕生しました。



「かのや市商工会」開所

輝北町商工会と串良町商工会が合併し、「かのや市商工会」が開所しました。その後、平成26年には吾平町商工会と合併しました。



「かのや紅はるか」初出荷

新たに定められた栽培・出荷基準をクリアした商品のみを「かのや紅はるか」として認証する制度が確立され、約1tが初出荷されました。



2014

- 12 平成二十六年
- 12 ソチ五輪フィギュアスケート男子で羽生結弦選手が金メダル
- 9 映画「アナと雪の女王」公開
- 4 消費税を8%に引き上げ
- 4 ゴルフの勝みなみ選手が15歳293日で最年少ツアー優勝
- 3 錦織圭選手がテニスの全米オープンで日本男子初の四大大会シングルス準優勝
- 9 御嶽山(長野、岐阜県)が噴火。噴石などで死者・行方不明者63人。戦後最悪の噴火災害に
- 9 種子島宇宙センターから小惑星探査機「はやぶさ2」打ち上げ
- 12 高輝度青色発光ダイオード(LED)を開発した赤崎勇さん(南九州市知覧町出身)がノーベル物理学賞受賞
- 12 リニア中央新幹線、品川〜名古屋間で着工

2013

- 9 平成二十五年
- 9 長嶋茂雄さん、松井秀喜さんに国民栄誉賞
- 6 富士山が世界文化遺産に登録
- 9 2020年東京五輪・パラリンピックの開催決定
- 9 新型の国産固体燃料ロケット、イプシロンが内之浦宇宙空間観測所(肝付町)から打ち上げ



小中一貫校 花岡学園開校

鶴羽小学校・古江小学校・菅原小学校・花岡中学校が統合され、施設一体型の小中一貫校としては県内初となる、児童生徒数215人の花岡学園が開校しました。



「NHK のど自慢」 公開放送

市文化会館で「NHKのど自慢」が開催され、予選会を勝ち抜いた20人が出場したほか、鹿児島市出身の歌手西郷輝彦さんが持ち歌を披露するなど大盛況のうちに幕を閉じました。



「鹿屋航空基地史料館」 入館者150万人突破

「鹿屋航空基地史料館」の入館者が150万人に達し、150万人目を記録した家族に認定証などの記念品が手渡されました。

◀2016

- 平成二十八年
- 1 日銀が初のマイナス金利政策決定
 - 3 サッカー鹿児島ユナイテッドFCがJ3参入
 - 4 熊本地震。M6.5の地震が発生し、その後も地震があり、死者50人、災害関連死は200人以上
 - 6 選挙権年齢が18歳以上に引き上げ
 - 8 志布志事件の捜査、違法判決確定
 - 8 リオデジャネイロ五輪でレスリングの伊調馨選手が4連覇するなど日本は金12個を含む史上最多41個のメダル

◀2015

- 平成二十七年
- 4 全国で初めて県全体での土曜授業が開始
 - 8 気象庁が噴火速報の運用開始
 - 9 安全保障関連法が成立。集団的自衛権の行使可能に
 - 10 鹿児島銀行と肥後銀行が共同持ち株会社「九州フィナンシャルグループ」を設立し経営統合
 - 10 マイナバー制度開始
 - 10 ラグビーW杯で日本は南アフリカを破るなど歴史的3勝
 - 10 「第30回国民文化祭かごしま2015」に全国から163万人参加
 - 12 日本初の惑星探査機「あかつき」を金星軌道に投入



「平和の花束」初開催

多くの特別攻撃隊員が出撃した鹿屋の地から平和へのメッセージを届ける「かのや未来創造プログラム～平和の花束～」が初開催されました。



鹿屋中央高校野球部 甲子園初出場・初勝利

鹿屋中央高校が大隅初の夏の甲子園出場を果たし、延長12回の末、市立和歌山高校に2対1のサヨナラ勝ちで見事甲子園初勝利を挙げました。



「美里吾平コミュニティ協議会」設立

「美里吾平コミュニティ協議会」の設立総会が開催されました。組織には4つの専門部会が設置され、特色ある地域づくりを実践するために様々な取り組みが始まりました。

◀2018

- 平成三十年
- 6 西日本豪雨。200人以上が犠牲になる平成最悪の豪雨災害に
 - 4 霧島連山えびの高原硫黄山が250年ぶりに噴火
 - 2 平昌五輪で羽生結弦選手が2連覇するなど、日本は金4個を含む史上最多13個のメダル獲得
 - 1 NHK大河ドラマ「西郷どん」放映開始。ブームに沸く

◀2017

- 平成二十九年
- 9 第11回全国和牛能力共進会で県代表が初の団体優勝
 - 9 桐生祥秀選手が陸上1000mで日本人初の9秒台の9秒98
 - 7 九州北部豪雨で40人死亡
 - 6 鹿児島地裁が大崎事件の再審認める
 - 3 奄美群島が国立公園に
 - 3 「コンテンドースイッチ」発売
 - 1 トランプ米大統領が就任

- 12 SMAP解散
- 10 「オートファジー(自食作用)」を解明した大隅良典さんにノーベル医学生理学賞
- 10 藤井聡太さんが史上最年少の将棋プロ棋士に



(C) 阪神タイガース



「平和公園屋内練習場」完成

「平和公園屋内練習場」が完成しました。鹿屋市出身の大和選手を含む現役・OBのプロ野球選手8人による打撃・守備練習が披露され、参加者全員で完成を祝いました。



鹿屋体育大学「スポーツパフォーマンス研究センター」完成

アスリートの体やチーム全体の動きなどを測定・分析できる最先端の研究設備が整備された鹿屋体育大学「スポーツパフォーマンス研究センター」が完成しました。



「鹿屋平和学習ガイド・戦争遺跡調査員」を初認定

市内に残る戦争遺跡の案内や資料収集などを行う「鹿屋平和学習ガイド・戦争遺跡調査員」14人が初めて認定されました。

◀2019

平成三十一年

- 4
4
3
2
- 12
11
11
11
10
9
9
8
6
- 退位の礼。「平成」終わる
小惑星リユウグウに着陸成功
日米通算4,367安打を放った大リーグ、マリナーズのイチロー選手が現役引退を表明
小惑星探査機「はやぶさ2」が小惑星リユウグウに着陸成功
5月1日からの新元号が「令和」に決定。典拠は万葉集で、国書からは初めて
安室奈美恵さんが引退
女子テニスの大坂なおみ選手が全米オープンで日本人初の四大大会シングルス制覇
がん免疫療法に道を開いた本庶佑さんにノーベル医学生理学賞
鹿屋平和学習ガイド・戦争遺跡調査員14人が初めて認定
- 大阪万博、開催決定
鹿屋市出身の大和選手を含む現役・OBのプロ野球選手8人による打撃・守備練習が披露され、参加者全員で完成を祝
「薩摩硫黄島のメンドン」(三島村)と「悪石島のボゼ」(十島村)が国連教育科学文化機関(ユネスコ)の無形文化遺産に
「鹿屋平和学習ガイド・戦争遺跡調査員」14人が初めて認定
小惑星探査機「はやぶさ2」が小惑星リユウグウに到着
第100回の夏の甲子園で、大阪桐蔭高校が史上初となる2度目の春夏連覇
- 全国高校女子駅伝で神村学園が初優勝
「平和」終わる



台風第16号が襲来

大隅半島に上陸した台風第16号により、橋の崩壊、道路の寸断、浸水被害が相次いだほか、市内各地で停電や断水が発生しました。



鹿屋市制施行 10 周年記念式典

「鹿屋市制施行10周年記念式典」が開催され、旧鹿屋市と合わせて約16年市長を務められた山下栄さんに名誉市民称号が贈呈されたほか、10周年記念特別表彰として7個人、8団体の表彰が行われました。



タイ王国のホストタウンに登録

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の事前キャンプ等を通じて、地域の人的・経済的・文化的な相互交流を行うタイ王国のホストタウンに鹿屋市が登録されました。



「鹿屋市地域包括支援センター」開所

高齢者等が住み慣れた地域で、安心して自分らしい生活が送れるように支援する総合相談機関「鹿屋市地域包括支援センター」が吾平町鉄道資料館跡に開所しました。



「マウンテンバイクパーク」オープン

霧島ヶ丘公園で「マウンテンバイクパーク」のオープニングセレモニーが開催され、参加者は起伏のあるコースでの走り初めを満喫しました。



「ユクサおおすみ海の学校」オープン

菅原小学校跡に体験型宿泊施設「ユクサおおすみ海の学校」がオープンし、開校記念イベントには多くの人が訪れました。



全国和牛能力共進会で 1席を獲得

やく し なり ひと
畜産農家 薬師 成人さん

平成29年に宮城県で開催された第11回全国和牛能力共進会で1席の発表を聞いたとき、まずはほっとしました。プレッシャーや色々な気持ちが入り交じっていた中だったので、人生で一番力が抜けた瞬間でした。最低限の結果を出さなければならぬという責任が常にあり、逆に悪い成績だったら自分だけの結果ではなくチームとして鹿児島県の足を引っ張ってしまうかもしれない、そのような精神的重圧は計り知れないものがありました。自分が育てた牛に自信を持つていることを審査員にアピールし、結果に結びついたことが何よりうれしかったです。

物心ついたころから畑があつて、牛が居ることは当たり前前の光景であり、自然と牛の世話や畑の手伝いをする一連の流れの中で、農業経営を身近に感じる事ができました。父親からはいい牛を育てたら、これだけの値段で売れるなど常に経営のあり方を教えてもらい、農業という仕事に魅力を感じていたので、小学校低学年のころには自分も父親と同じ道に進みたいと何の迷いもなく思っていました。

父親からは「働かずして得ることはない。日頃から苦労は買ってでもしろ」と言われてきました。悠々自適な生活に憧れる時期もありましたが、人より1時間

も2時間でも早く起きて働くとか、人より少しでも取り組む姿勢がないと駄目で、人と同じ時間軸で働くのであれば人と同じ結果にしかならない。人が寝ている間に何ができるか。時間の使い方や仕事に対しての取り組む姿勢を教わりました。

前回の全国和牛能力共進会では、出品した牛だけに特別な扱いをしたわけではありません。他の牛と同じように日頃から取り組んでいることが結果として出品への取り組みにも活かされていると思えました。普段できないことをすることで失敗の原因になることもあるため、日々の管理の積み重ねが大事であり、今でも通年で安定した牛づくりに取り組んでいます。

令和4年に開催される第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会では、県内各地の農家の皆さんがそれぞれ県代表として、日本一になりたいと目標をもって、各町村での取り組みが大事になってきます。そのためには、個人個人のレベルの底上げはもちろん、鹿児島チームとして一つにまとまることで、連帯につながると思います。行政や関係機関のサポートをいただきながら、まずは県代表を目指す、全国和牛能力共進会で連覇を成し遂げることが目標です。